

だいほんざんえいへいじ せんたい みやざきえきほ
大本山永平寺の先代の住職であった、宮崎奕保禅師がよく仰っていた言葉があります。

「一日の真似は一日の真似、三日の真似は三日の真似。一生真似れば本物だ。」

このお言葉は、「仏さまの生き方、仏道修行を真似し続けなさい。真似であったとしても、一生続ければ本物になる」というお言葉です。真似するとは、簡単そうですが、真似をし続けるとなるとなかなか難しいことです。その上、仏さまの真似となれば、何をどうすればいいのか？ 何をどんなふうに真似をすれば仏さまの生き方となるのでしょうか？

どうげん しょうぼうげんそう ぼだいさつたししようほう まき
道元禅師が著した正法眼蔵の中に、「菩提薩埵四摂法」という巻があります。

「菩提薩埵」とは、さと ぼさつ
「覚りを求める者という意味で、菩薩のことをいいます。菩薩といえは、観世音菩薩や地藏菩薩を思い起こされる方も多いことでしょう。

また、「四摂法」とは、その菩薩の修行の中でも、特に私たちが社会生活をする中でも行うことができる四つの修行、「布施・愛語・利行・同事」のことです。

つまり、「菩提薩埵四摂法」の巻は、菩薩が社会の中で行うことができる、「布施・愛語・利行・同事」の四つの修行について述べられており、この四つの修行は日々の生活に追われている私たちにも、真似をすることができる菩薩の修行なのです。

その四つとは・・・

まず一つ目が「布施」。お寺や僧侶にお布施をすることも大切なことですが、自分のためではなく、他の人のため・世の中のために何かを行うことも立派な布施なのです。

二つ目が「愛語」。どんな人に対しても、その人の事を第一に考え、その人のためになる言葉をかけることです。

三つ目が「利行」。他人の利益になることに、力をつくすことです。

四つ目が、「同事」。相手のことを思い、相手と同じ立場に身をおき、行動を共にす

ることです。

この「布施・愛語・利行・同事」は、私たちが生きていく社会の中で、自分と他の人との関係性について説かれた大切な教えであり、修行なのです。

「真似る」とは「学ぶ」の語源だといいます。仏さまの真似をするということは、仏さまの言葉や行いを学ぶことなのです。

菩薩の修行である「布施・愛語・利行・同事」をぜひ、学び、実践してみてください。

たとえ一日の真似で終わってしまっても、何度も何度も繰り返し真似し続けることこそが仏道修行なのですから……。